

■ 事後評価（農山漁村地域整備計画）

香川県塩飽海域における水域環境保全と水産資源の維持・増大のための漁場整備計画

計画の名称	香川県塩飽海域における水域環境保全と水産資源の持続・増大のための漁場整備計画		
計画の期間	平成25年度 ～ 令和7年度 (13年間)	交付対象	香川県
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> 水産環境保全と水産資源の維持・増大と漁業の生産性向上のための基盤整備を推進する。 		

1. 事業効果の発現状況 : 一定の効果があつた

- 整備漁場において優先して増殖していた藻類は、目標種の大型藻類であるガラモの繁茂は少なかったが、小型藻類のイギス及びミルが主体であった。
- また、対象種であるメバル、カサゴ、クロダイの他、キジハタ、ウマヅラハギ等の有用魚種の増殖を確認した。モニタリング調査における餌料生物量から推定した対象魚種の増加重量は47.9トン（高見工区16.7トン、佐柳工区19.1トン、本島工区12.1トン）であった。

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 水産資源の回復や海域の生産性向上を図るため、着定基質（魚礁・投石礁）を海底に設置することにより、魚介類の産卵場、幼稚魚の育成場、餌場など資源生産の場としての機能を有する増殖場（藻場：ガラモ）を整備し、対象生物（クロダイ、カサゴ、メバル）を増加させる。
----------------	---

定量的指標の定義及び算定式

塩飽地域における対象魚種（メバル・クロダイ・カサゴ）の推定増加重量

	定量的指標の現況値及び目標値		達成率	備考
	当初現況値 (H25)	最終目標値 (R7)		
目標値:	0 t	57 t		
達成値:		48 t	84.2%	

交付対象事業

事業名	事業型	事業箇所名 (地区名)	事業実施田体	関係市町村	計画期間内の事業内容 (工種及び数量)	計画期間内の実施事業内容 (工種及び数量)	事業実施期間 (年度)	計画期間内の総事業費 (単位:千円)	実施期間内の総事業費 (単位:千円)	進捗率 (事業費ベース)	備考
水産物供給基盤整備事業	増殖場整備	塩飽地区	香川県	多度津町・丸亀市	増殖場造成4.7ha モニタリング調査一式	増殖場造成4.7ha モニタリング調査一式	平成25年～令和7年	485,000	485,000	100%	

要素事業の事業進捗	<p>計画通り進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 他事業（津波高潮対策事業等）に予算配分を優先したため、進捗が遅れた。 関係漁協から工事箇所の変更要望があり、地元調整に不足の時間を要した。
-----------	--

2. 今後の方針

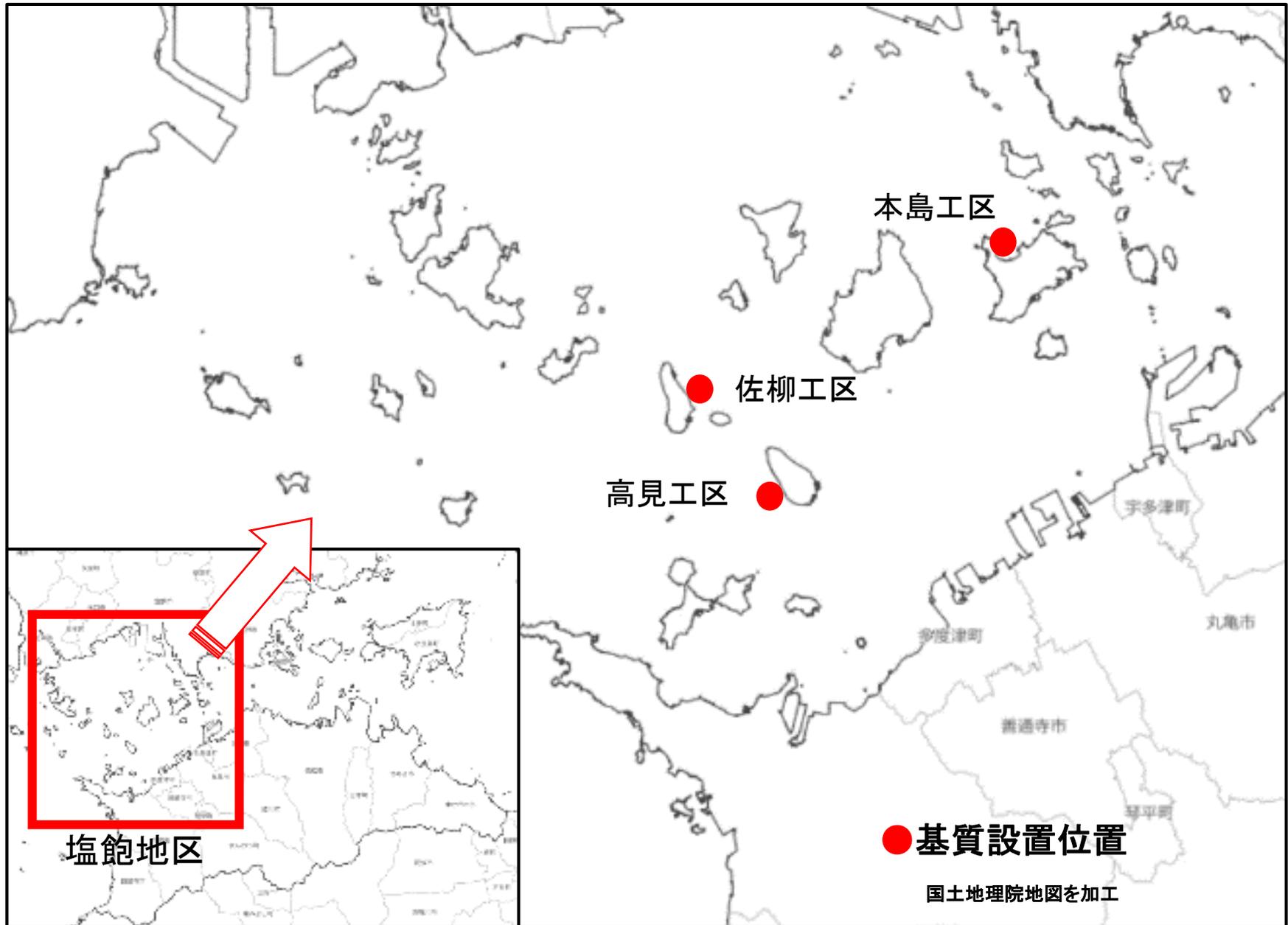
- 完了
- 関係漁業協同組合と管理委託契約を締結し、幼稚魚の保護育成に努めるとともに、効果が持続するよう維持管理を行う。

事後評価書参考資料

■ 事後評価（農山漁村地域整備計画）

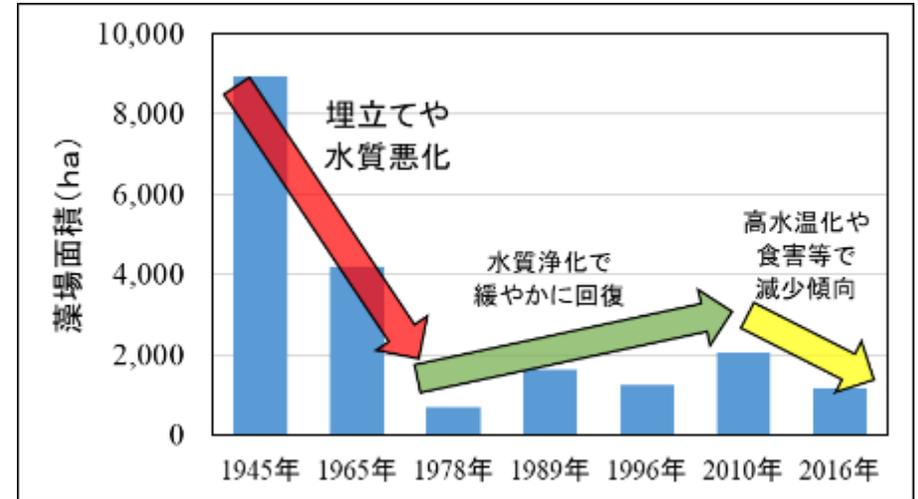
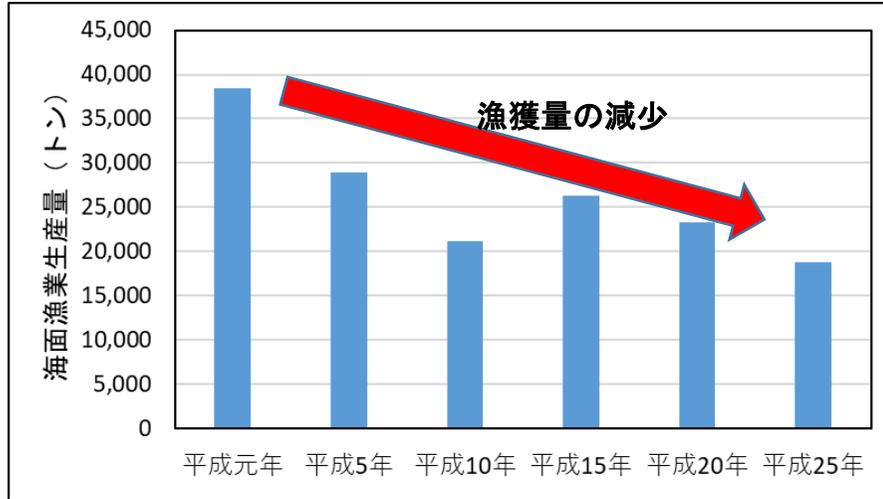
香川県塩飽海域における水域環境保全と水産資源の維持・増大のための漁場整備計画

1. 位置図



2. 農山漁村地域整備計画の概要

課題：瀬戸内海の環境変化（高水温化・貧栄養化等）により、香川県海域の漁獲量が減少し、魚介類の産卵場、育成場等の機能を有する藻場も減少している。



計画の目標：水産資源の回復や海域の生産性向上を図るため、着定基質（魚礁・投石礁）を海底に設置することにより、魚介類の産卵場、幼稚魚の育成場、餌場など資源生産の場としての機能を有する増殖場（藻場：ガラモ）を4.7ha整備し、対象生物（クロダイ、カサゴ、メバル）を年間57トン増加させる。

計画期間：平成25年度～令和7年度（13年間）

（当初：平成25年度～平成29年度（5年間）、変更：平成25年度～令和2年度（8年間））

事業費：485百万円（当初：378百万円）

事業概要：増殖場造成4.7ha、モニタリング調査1式

3. 着定基質の種類



シェルナース礁



シーマークリーフ礁



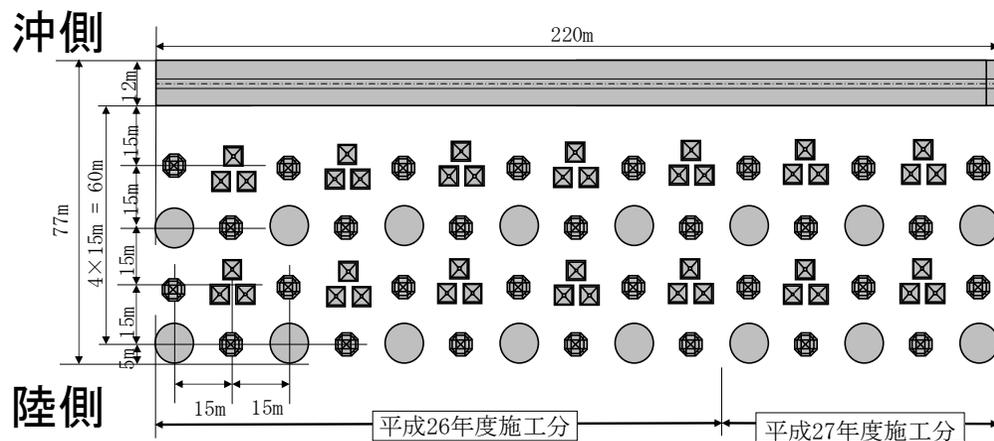
石材(投石礁・投石マウンド礁)

整備条件

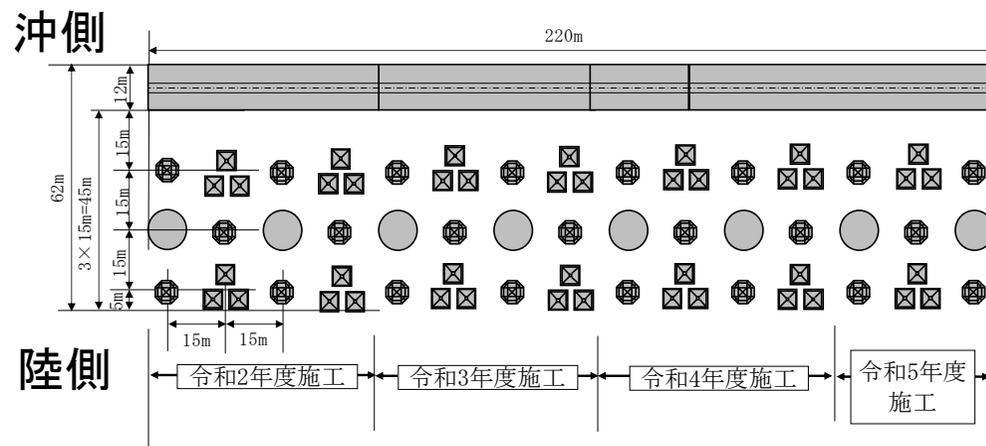
- ①水深:5~10m
- ②底質:砂泥質
- ③傾斜:緩やか
- ④その他:船舶の航行、漁業操業に支障がない。

4. 着定基質の配置

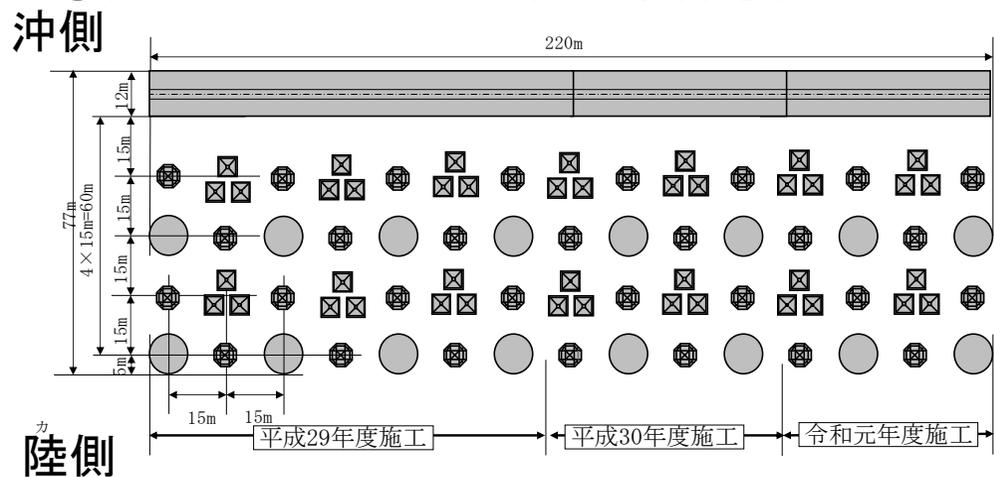
①高見工区 (1.69ha: 平成27年度完了)



③本島工区 (1.36ha: 令和5年度完了)



②佐柳工区 (1.69ha: 令和元年度完了)



凡例	藻礁の種類	高見工区	佐柳工区	本島工区
	シェルナース礁	42基	42基	42基
	シーマークリーフ礁	30基	30基	23基
	投石マウンド礁 (石の山)	16か所 838m ³	16か所 838m ³	8か所 419m ³
	投石礁 (潜堤)	3,080m ³	3,080m ³	3,080m ³

5. 事業効果の発現状況 ①高見工区

調査時期：平成29年7月、10月、平成30年2月

調査内容：潜水目視調査（海藻類、魚介類）、漁獲調査（建網）、餌料生物量



シーマークリーフ礁(7月)



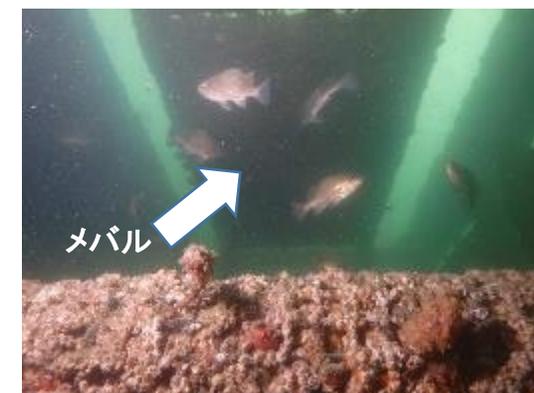
シェルナース礁(2月)



シェルナース礁(10月)



シーマークリーフ礁(10月)



シェルナース礁(10月)



投石マウンド礁(2月)

効果の算定

対象魚種の増加重量(餌料生物量から推定)

①現存餌料生物量：9,519kg(平均値)

②餌料生物増加量：190kg/日(①×0.02)

③魚類の増加重量：23,4トン/年

(②×魚類増加係数×365日)

うちクロダイ増加量＝0.92トン/年(③×占有率)

うちメバル増加量＝9.46トン/年(③×占有率)

うちカサゴ増加量＝6.30トン/年(③×占有率)

対象種の合計増加量＝**16.7トン/年**

6. 事業効果の発現状況 ②佐柳工区

調査時期: 令和3年7月、10月、令和4年2月

調査内容: 潜水目視調査(海藻類、魚介類)、漁獲調査(建網)、餌料生物量



シーマークリーフ礁(7月)



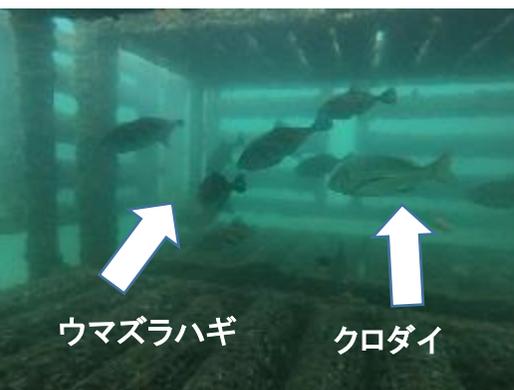
シェルナース礁(2月)



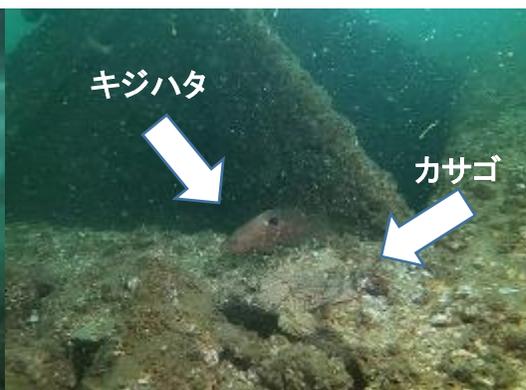
シェルナース礁(7月)



投石礁(10月)



シェルナース礁(10月)



シーマークリーフ礁(10月)

効果の算定

対象魚種の増加重量(餌料生物量から推定)

- ①現存餌料生物量: 10,920kg(平均値)
- ②餌料生物増加量: 218kg/日(①×0.02)
- ③魚類の増加重量: 26.9トン/年

(②×魚類増加係数×365日)

うちクロダイ増加重量=1.05トン/年(③×占有率)

うちメバル増加重量=10.85トン/年(③×占有率)

うちカサゴ増加重量=7.23トン/年(③×占有率)

対象種の合計増加量=19.1トン/年

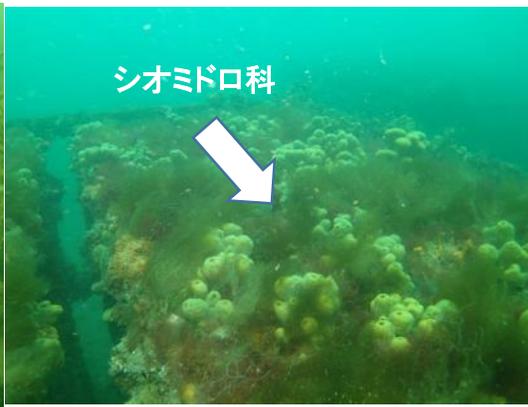
7. 事業効果の発現状況 ③本島工区

調査時期: 令和6年9月、11月、令和7年3月、5月

調査内容: 潜水目視調査(海藻類、魚介類)、漁獲調査(建網)、餌料生物量



シェルナース礁(9月)

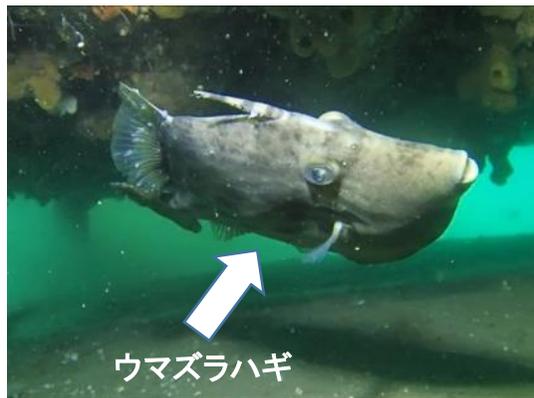


シェルナース礁(3月)

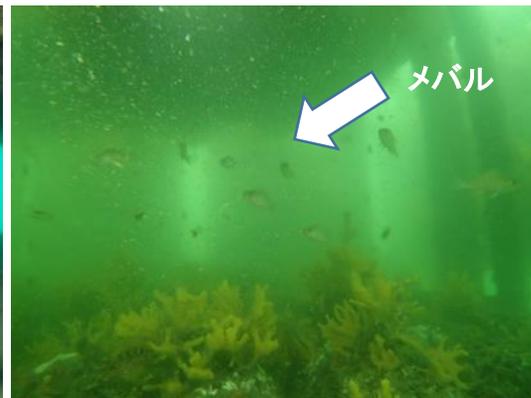


シェルナース礁(11月)

投石マウンド礁(11月)



シェルナース礁(9月)



シェルナース礁(11月)

効果の算定

対象魚種の増加重量(餌料生物量から推定)

現存餌料生物量①: 6,891kg(平均値)

餌料生物増加量②: 138kg/日 (①×0.02)

魚類の増加重量③: 17トン/年

(②×魚類増加係数×365日)

うちクロダイ増加重量=0.66トン/年(③×占有率)

うちメバル増加重量=6.85トン/年(③×占有率)

うちカサゴ増加重量=4.50トン/年(③×占有率)

対象種の合計増加量=12.1トン/年